

# 報恩寺の正和五年五輪塔

ほうおんじのしょうわごねんごりんとう



文化財愛護シンボルマーク

名称	報恩寺の正和五年五輪塔	所有者	報恩寺
別称	報恩寺の正和五年塔	指定	兵庫県指定文化財
数量	1 基	指定分類	建造物
寸法	塔高 184.6cm（地輪 - 空輪）	指定名称	石造五輪塔（他 3 基を含んだ 4 基） 附 銅製蔵骨器 1、陶磁製蔵骨器 1
材質	石造、花崗岩製	指定年月日	昭和 50（1975）年 3 月 18 日
時代	正和 5（1316）年／鎌倉時代後期		
所在地	加古川市平荘町山角 466 番地 1		

※通番 35 号「報恩寺の石造五輪塔」4 基のうち 1 基についての解説です。

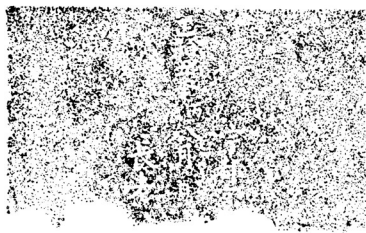


報恩寺の正和五年五輪塔

平荘町山角にある報恩寺は、中世の石造文化財が数多く残っている市内有数の古刹です。本堂の西から稲荷社に続く参道沿いに、4基の五輪塔が東を向いて整然と建ち並んでいます。そのうち、南から2番目に建っている花崗岩製の六尺塔がこの塔です。地輪に「正和五季」の銘文があることから、この塔が鎌倉時代後期の正和5（1316）年に造立されたことが分かります。

塔の残存状況は良好で、各部は丁寧なつくりをしています。各面に方角を意味する四方梵字を刻まない点や、全体の形状からみても、鎌倉時代後期に出現する西大寺系五輪塔の特徴をよく表しています。

地輪の北面に年号とともに刻まれている人物名「宇都宮長老」は、南北朝時代に成立した播磨の地誌『峯相記』に登場する、法華山一乗寺（加西市）の住職であった人物と考えられています。この頃、報恩寺が律宗寺院の中で勢力を持っていた西大寺の末寺であったこともあり、播磨有数の寺院である一乗寺と報恩寺との間に真言律宗をとおした結びつきがあったことがわかります。



正和五季  
宇都宮  
丙辰  
八月日  
長老

地輪（北面）拓本・銘文

また、昭和49（1974）年にこの塔の解体修理が行われた時、基壇の下から銅製の蔵骨器が出土しています。蔵骨器の周囲は盛り土で固定され、基壇の下部に穿った円形の穴を蓋として被せた状態で五輪塔の地下に埋められていました。蔵骨器は経筒に似た円筒形で表面に金メッキが施され、中には火葬骨が納められていました。

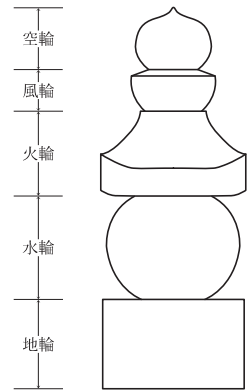


報恩寺の五輪塔 遠景

正和五年五輪塔は、紀年銘をもつ完存の五輪塔としては播磨地域で最も古く、左右に並ぶ3基の秀麗な五輪塔と合わせて、県下有数の石造五輪塔群として知られています。中世播磨においての報恩寺と真言律宗の隆盛をうかがうことができる、加古川市を代表する貴重な文化財といえるでしょう。

### 五輪塔

中国の五大思想に由来する、5つの部材からなる仏塔で、塔全体で大日如来を象徴しています。平安時代後期に登場し、中世になると庶民仏教の浸透に伴って全国各地に広がり、墓塔・供養塔として建てられるようになりました。



（拓本／『加古川市史 第七巻』から転載、文・写真／古林）

#### ●参考文献

- 「報恩寺正和五年在銘五輪塔の納骨施設・他について」『史迹と美術 第452号』坂田磨耶子（1975年）
- 『播磨の地誌 峯相記の研究』神栄起郷（1984年）
- 『加古川市史 第七巻』加古川市（1985年）
- 『加古川市史 第四巻』加古川市（1996年）
- 「東播磨の中世石塔と文観」『奈良歴史研究 第86号』山川均（2016年）

#### ●キーワード

- 五輪塔 報恩寺 西大寺系律宗 蔵骨器
- 所在地 兵庫県加古川市平荘町山角 466 番地 1
- 交通 JR神戸線「加古川」駅発神姫バス「都台」行き「山角」バス停から北へ徒歩3分  
車の場合は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ5.5km